

セネガル通信

～日常や活動を岡山県の皆さんにお届けします～

JICA海外協力隊
2025-1次隊
小学校教育
長尾有花
2026/10/12

私の活動（1年経過）

セネガルに来て、1年が経ちました。初めの頃は、フランス語もウォロフ語も十分に話せず、先生たちとのコミュニケーションに苦労することも多くありました。

学校を訪問し、一緒に授業をしたり、休み時間に話したりする中で、少しずつ先生や子どもたちとの距離も縮まってきました。今では、自分から「こんな授業をしたい」と伝えたり、先生と相談しながら活動を進めたりすることも増えています。

うまくいかないこともあります。残りの任期も、現地の先生や子どもたちと一緒にできることを考えていきたいです。



教具を使った授業

セネガルでは、先生の説明を聞いた後、黒板に書かれた内容をノートに写したりする授業が多く見られます。そこで、子どもたちが実際に見たり、触ったりしながら考えられる授業を先生たちと行ってきました。

算数では、身近にある棒やカードを使ったり、時計や立体の模型を作ったりしています。こうした教具は先生たちの反応も良く、興味を持ってくれることが多いです。

また、私一人ですべて準備するのではなく、先生に少しでも手伝ってもらい、一緒に準備し、一緒に授業をすることを大切にしています。



5や10のかたまり

2年生でも、簡単な計算を指や線を使って数える子どもが多くいました。そこで、計算の基礎となる「5や10のまとまり」を意識した活動を毎日10分間、段階的に実施しました。繰り返し取り組むことで、正答率や計算の速さが向上し、指を使わずに答えられる子どもも増えました。



教員養成校での授業

小学校の先生を目指す学生が学ぶ教員養成校でも授業を行いました。セネガルでは現在も、学校で体罰を目にすることがあります。（法令では禁止されています。）体罰を使わない学級づくりをテーマに、日本の学校の様子を紹介しながら、子どもたちへの声かけや関わり方を一緒に考えました。学生からも「静かにする合図を決める」「できている子を褒める」などのアイデアが出ていました。



長いバカンス



セネガルのバカンス（夏休み）は、なんと3か月以上！ その間、学校の宿題はありません。家族の手伝いとして、マルシェや道端で物を売っている子どもの姿も見かけます。

私にとって一番の思い出は、家族が日本からセネガルに遊びに来てくれたことです。1年間暮らしてきた町や、普段の生活を実際に見てもらい、一緒にセネガルを旅することができました。

長いバカンスも終わり、いよいよ活動も残り半年。引き続き自分にできることに取り組んでいきたいです。